

# 小木小学校の伝統を受け継ぐ

校長 三浦 一富

今月の全校朝会、子どもたちに創立記念日の話をしました。**11月11日**が小木小学校の誕生日、すなわち「創立記念日」です。今の時代、子どもたちにとっては、「ポッキー・ブリッツの日」となるようです。しかしながら、今年創立141周年を迎える小木小学校の「伝統」を、改めて考えてみるよい機会としてほしいものです。

ある6年生は、「マーチングバンドは、昔から続く小木小学校の伝統で、3～6年生が一人一人美しい音色を奏でます。4～6年生が使う楽器も昔から引き継いできたもので、たくさんの思いが詰まったマーチングバンドです。」と言います。私も同感です。

小木小学校創立百周年記念誌『小木小百年のあゆみ』には、このマーチングバンドの前身、「鼓笛隊」創設時の様子について、以下のような記述があります。

昭和三六年(※1961年、今から56年前)、小木小学校に初めて鼓笛隊が誕生した。佐渡郡内に鼓笛隊のある学校はほんの一、二校しかなく、大変先進的な学校と言われたものである。太鼓、中太鼓、リラ、シンバルと、初めて見る楽器に子どもたちは目を見はった。そして、五、六年生がこれに参加することになり、毎日の練習が始まった。三〇年くらい前までは、学校には楽器と言われるものは、ピアノ一台であり、さわっただけで怒られ立たされたという頃に比べると大きな違いである。

低学年は、指揮者やバトンガールにあこがれて、手を振って歩く姿がよく見られたと言う。練習を重ねた鼓笛隊は、その後、体育館竣工祝いや九〇周年記念日には、小旗をもった低学年をしたがえ、町内行進を行った。町の人々は、整然としたその行進に目を見はり、おしめない拍手を送った。

今日では、佐渡あげての島まつりや、小木の港まつり、小木町における特別行事などに参加し、その行事に花をそえている。

現在のマーチングバンドと重なる活動の様子がうかがえます。やはり「たくさんの思いが詰まった」小木小学校の伝統の一つです。

今年度も後半に入り、小木小学校の伝統が新たなページを加えながら、受け継がれていきます。引き続き、保護者、地域の皆様からの温かいご声援をお願いいたします。